

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2070800335		
法人名	有限会社エスポワール		
事業所名	のぞみの家		
所在地	長野県小諸市和田 8 4 0 番地 5		
自己評価作成日	平成21年12月25日	評価結果市町村受理日	平成22年4月21日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2070800335&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島 7 - 1 オフィス松本堂 2A		
訪問調査日	平成22年3月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小諸市南部佐久平の一角、佐久インターより車で5分の住宅地の入口に当ホームがあり、美しい浅間山が望める地に「のぞみの家」が建っている。地域との関係も良く地域に密着した生活を入居者、職員共に支え合いながら実践しているホームである。全職員がこの建物に負けないサービスの質の向上に対する熱意をもっている。法人代表の徹底した職員指導により介護にあたる職員の底上げになっており、また各研修に積極的に参加できる環境になっている。職員は常に入居者お一人お一人の思いに添ってお一人お一人を受けとめ、お一人お一人の思いに共感しながら共に暮らしている。毎年中学生の職業体験やボランティア学習を受け入れを行っており、また昨年度より信州短大の認知症介護実習の受け入れを開始し施設としても共に学びの機会を持ち成長している。家族から法人代表の熱意や職員指導、職員への感謝の気持ちの手紙が届き、一同の励みになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コミ(KOMI)理論を事業所の中心に据えて、利用者が残された力で生活し、生きていることの喜びや希望を感じてもらいながら、職員が利用者の心に寄り添うことにより、共に暮らしていることが味わえるよう取り組んでいる。パソコンや携帯などの最新機器を使い、業務の簡素化や緊急連絡等の迅速化、情報の共有化を図っている。一方で、一人ひとりのペースや生活のリズムを大切に、細やかに、辛抱強く介護に取り組み、常に利用者向き合い、今、利用者にとって必要なことは何であるのかを考えながらケアを実践している。地域との親しいつきあいがあり、地域に見守られ、地域へ貢献もし、相互に支え、支えられる関係作りをしている。ゆったりとした敷地の中で庭木や菜園に囲まれ、四季の移り変わりを感じながら、利用者がここに居ても良いのだと思えるように、ご家族が安心して信頼感を持てるように、職員は真摯に、精一杯の努力をしている。設立者のぶれることのない熱い思いが、趣のある共用空間となり、職員との強い信頼関係を作り、地域からの温かい支援となっていることが感じられた。

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(東ユニット)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(西ユニット)			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に作成した理念を継続している。毎朝の申し送り事に理念を唱和することで意識付け、理念の実践に取り組んでいる。全体会議やカンファレンス等で業務を振り返り理念に基づいたものであったか確認しケアの統一を図っている。	評価結果を踏まえて、理念に地域との関係性を盛り込み、事業所の目指すサービスのあり方を示した事業所独自の理念を作っている。玄関入口に掲示し、訪問者にも周知すると共に、申し送り等で唱和して職員への共有化も図っている。全体会議等で理念の実践状況を振り返り、理念からぶれないケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの行事には、隣近所の方や区長さん、民生委員さんなどを招待している。地域の行事や老人会(虹の会)にはホーム側から出かけるなど、お互いに行き来している。	隣組に加入し、組長も経験し、地区の道普請などの活動にも参加するなど地域に溶け込み親しいつきあいをしている。地域への行事参加、事業所行事への招待、中学生の職場体験や短大生の実習の受け入れなど双方向的なつきあいとなるよう取り組んでいる。海の日に開催するのぞみの家夏祭りには地域の方が大勢参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	市の「高齢者見守り事業」の協力事業所に登録し地域に貢献している。中学生の職場体験やボランティア活動の場所として受け入れも行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は入居者の家族、地区の役員、市担当者など幅広い立場の人達が参加し定期的に開催されている。会議ではホームからの報告や参加者からの質問、要望、意見などを頂き、話し合いが行われている。頂いた意見はサービスの向上に役立てられている。	心身の状況に応じて、利用者も顔を出せる環境の中、地域や行政の方の参加の下、評価や苦情も含めた透明性のある議題を提出して意見交換を行っている。提案された意見に対しては速やかに対応している。開催回数や公表方法について、さらなる工夫をされることを望みます。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の連絡調整会議、グループホーム部会等に参加し、市とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所で開催する運営推進会議の折に事業所の現状の説明をし、協力支援を求めている。月1回開催する市の連絡調整会議・グループホーム部会に参加し、地域ニーズや行政の情報を把握したり、情報交換をしながら協力関係を築くよう努めている。	

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一切していないしありえない。	身体拘束をしないケアについては、契約書に事業所の姿勢を明記すると共に、利用者の権利として規定している。マニュアルの学習会等を通じて職員の認識の共有化を図り、抑圧感のない暮らしの実践に取り組んでいる。玄関の施錠はあるが、玄関近くに行くと音が出たり、見守りや連携プレーにより、利用者が外に出たい希望に対しては速やかに対応するよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会に参加したり、社内研修などで取り上げている。カンファレンス等で情報交換を行い虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修、社内研修等で学んでいる。ケアカンファレンス等で必要に応じて活用できるように支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧な説明を行い利用者や家族等の不安、疑問点等を伺い十分な説明を行い理解、納得を伺っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が寄せられた場合は会議を開いて検討、改善し入居者のご家族や運営推進会議などで報告している。利用者の言えない表せない思い等、関わりの中で常に利用者の立場になって思いを把握し反映させている。	のぞみの家便りを毎月発行し、請求書と共にご家族に送付して、ご家族からの安心を得ている。面会時には温度版や場面シートを見て頂き、ご家族から見えにくい日々の様子を説明している。又、個人別の面会ノートを作り、相互にコメントを記入できるようにして、連絡帳の役割も果たしている。意見等は会議で話し合い、速やかに対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回開設者、管理者、パートも含めた全職員参加の全体会議、ケアカンファレンスを行っている。緊急時はその都度、ケアカンファレンスを行っている。又全職員が毎月必ず提案書を出して検討、実行している。	毎月全職員が日々の業務に関する、その月の目標を提案させて、職員の気付きやアイデアを運営に活かすと共に職員の自己研鑽や問題意識を高揚させる機会ともしている。管理者は全体会議の折に、職員の意見を聞き、職員同士の意見交換もあり、事業所全体のコミュニケーションは良く取れている。	

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>食事会や会議などで交流を図り、不安や迷いを共有し解決できるようにしている。職員も入居者も楽しく伸び伸びと生活出来るように、自主的に運営できるように支えている。困った時にいつでも連絡を取り合い相談できるように、管理者・ホーム・運営者同士が無料のソフトバンクの携帯電話を持っている。職員が安心して勤務できるよう、24時間対応で緊急時には押しボタンを押すと飛んで来てくれるように警備会社と契約している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>春の全体研修のほかに、数ヶ月ごとに認知症の理解や介護知識・技術の「習得のために社内研修を計画して行っている。県・市の研修やグループホーム協議会の研修は、個々の職員のレベルに合わせて参加させている。佐久広域のグループホーム同士での交流が深く、職員が交代に他のグループホームで学ぶ機会を作っている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム部会や佐久圏域のグループホーム連絡協議会に参加し、地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させて行く取り組みをしている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者には事前にホームに来ていただいたり訪問して、困っている事、不安な事、求めている事等ゆっくりお話させていただいて受け止める努力をしている。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者の家族にも、事前にホームに来ていただいたり、訪問して、困っている事、不安な事、求めている事等ゆっくりお話させていただいて受け止める努力をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居希望者、ご家族のお話を良く聞き、情報提供書、診断書等も参考にし、その時まず必要としている支援を見極めた対応に努めている。</p>		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	感情豊かな生活が送れるように全職員が言葉かけや雰囲気作りをしている。料理、畑仕事、遊び、漬物など職員に教えてくださり、助けて頂き、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの入居者の様子を伝え、相談にのっていただいたりしている。入居者の思いに家族、職員と共に寄り添っていくことができるように連携を図っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者・ご家族にたくさんのお話を伺いお一人お一人のこれまでの人生を知り、馴染みの人や場所との関係を途切れないように大切に活かすよう全職員が心にとめて日々のケアを行っている。	ご家族の協力を得て、墓参りや馴染んだ故郷の祭りに出掛けたり、行き付けの理髪店にも行っている。電話を使っての会話の支援も行われ、これまでの暮らしで培ってきた関わりが継続出来るよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員がさりげなく橋渡しをする中で、入居者同士で居室の訪問をしたりソファで昔話をされたり、自由に過ごされ、助け合う姿が見られている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、ご家族がみえて相談にのったりしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者にたくさんのお話を伺い入居者お一人お一人が生きて生活出来るようお一人お一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は入居者の思いを職員間で情報交換や検討をしている。	コミ理論を土台にして利用者の思いや意向を把握している。利用者との会話や表情から、どんな暮らしを望んでいるのか、有する力を発揮して自分らしくなれることは、どんなことなのかを具体的に教えてもらったり、職員間で情報交換しながら、利用者が暮らす喜びや希望を感じてもらえるよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活歴や生活環境、その方らしさを知るための調査書に記入していただき、折に触れて入居者やご家族のお話をゆっくり伺い、お一人お一人のこれまでの人生の把握に努めている。又、介護支援専門員・医療機関からは必ず情報提供書をいただき、サービス利用の経過等を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日入居者お一人お一人のファイルに日々の様子を細かく記録し、一人ひとりの人生の歴史に合わせて、持てる力を見極めている。又カンファレンスで情報交換し総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、職員等で話し合い、入居者お一人お一人の心に寄り添って目標をたて、個々の特徴を踏まえて、地域でその人らしく暮らし続けるために具体的な介護計画を作成し、月に一度はモニタリングを行っている。	コミ理論に基づき、アセスメントから評価まで行っている。ご家族に記入してもらった調査書を土台に、利用者やご家族と十分に話し合い、計画作成担当者が中心になって、その人らしく生活するための介護計画を作成している。日々のカンファレンス、月1回の全体会議の場でモニタリング・評価を行い、設定期間毎の計画の見直しを行うと共に、心身の状況変化に応じて臨機応変の見直しもあり、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づき、工夫など毎日の様子は個別記録、温度版やコミ場面記録に記入し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域で暮らす認知症の方のために共用型認知症対応型通所介護の指定を受けており、緊急時には、自主サービスとして緊急一時宿泊を行い、馴染の関係の中で環境が変わることなく過ごせるよう支援している。自宅での生活が困難になった時に、馴染の職員がいる馴染の環境への住み替えができるよう支援している。医療連携体制を活かし、主治医による往診や、訪問看護により、受診や入院を出来る限り回避し、ADLが落ちないように早期の退院を支援し、本人の苦痛や感染の危険がない限り看取りまで行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要性に応じて、運営推進会議などで検討し、地域全体で協力しながら支援している。		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医を伺い、入居者、家族が希望する医療機関を受診していただいている。必要があれば、自費になるが、介護タクシーなどを手配し、希望する医療機関を受診できるよう支援している。往診していただける主治医には往診をお願いしている。</p>	<p>利用者やご家族の希望するかかりつけ医となっているが、時間の経過の中で事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする方が大半となっている。受診の付き添いは基本的にはご家族となっているが、状況に応じて職員が代行している。その際は途中の事故等の懸念があり、介護タクシーを利用している。医療連携体制があり、かかりつけ医や歯科医の往診もあり、医療面での安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>管理者が看護師であり、不在の時には訪問看護ステーションとの連携が取れている。24時間いつでも相談できる医療機関もあり、非常に恵まれている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時医療機関には情報提供を行い、又入居者が安心して過ごせるよう、入院中にお見舞いに行き、帰ってくるのを待っている事を伝えている。病院の地域連携室や医療相談室を通して医師や看護師と密接に連絡を取り合い、ケアカンファレンス等を必要に応じて行って退院に備えて連携を取っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に入居者、家族と話し合っている。状況に応じて、揺れ動く入居者やご家族の気持ちに沿って、その都度かかりつけ医等と話し合い、全員で方針を共有している。</p>	<p>重度化や終末期に向けた対応指針があり、利用者やご家族と十分に話し合い、了解を得ると共に全職員の対応への認識の共有化も出来ている。医師、看護師との連携や協力があり、ご家族等の希望に沿った対応が出来る環境となっている。了解事項について、ご家族の心の揺らぎもあるので都度の話し合いも行われている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員が毎年救急救命の講習を受けている。定期的に心肺蘇生の練習をしたり、研修を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練を行っている。運営推進会議や隣接の方が集まる行事など協力が得られるようお話ししている。</p>	<p>年2回(昼・夜想定)全職員参加の下、避難訓練を行い、防災マニュアル・避難経路図もあり、地域との協力体制も築いている。警備会社との契約、緊急メールでの同経営の全職員への連絡、食料等の備蓄、全職員の消火器の使用訓練、スプリンクラーは現在設置中と防災への備えは充分であった。</p>	

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修、会議、カンファレンス等で折に触れて左記の大切さについて話し合っており全職員が心配りしている。	尊厳の保持やプライバシーについては契約書に利用者の権利として明記し、個人情報の保護や守秘義務については職員に十分に説明し、責任ある取り扱いと言動への配慮を徹底している。個人の書類は事務室に保管されている。日々の言動については管理者が気付き次第、注意を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選んでいただいたり献立を相談したり外食時にメニューを見て好きな物を選んでいただいたり、出来るだけご自分で決めたり意志を表示できるような生活を送っていただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝寝坊をしたい時には、一人だけゆっくりと起きて朝食をとったり、毎日入浴したい方には毎日入浴していただいたり、危険のない限り自分のペースで自由に暮らせる様に心がけている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好きな服を選んで着ていただいている。理容室はご自分の好きなところへ行っている。行かない方には美容師に来てもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	持てる力を活かしながら、食事の献立を利用者に相談しながら味見していただいたり、食事の準備を手伝っていただいたり片付けを一緒に行っている。昔作ったおやつや料理を教えていただいていたたり、入居者と職員と一緒に楽しんでいる。	利用者の心身の状況に応じて、出来る範囲で、調理の下準備から食器拭きまでの工程を職員と一緒にやっている。焔で採れた物やおすそ分けで頂いた物を活用したり、利用者の知恵を借りて、野沢菜漬けのテンブラ、ニラセンベイ、桜もちなども作り、季節感や懐かしさを味わえる楽しい食事となるよう工夫もしている。献立は法人内系列の栄養士の基本献立を土台に、利用者とも話し合い、職員が作成し、毎月栄養士から栄養バランス等のチェックを受けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による勉強会や作成してもらった資料を基に、栄養バランスの整った献立となるようこころがけ、毎食の献立を記録し、栄養士に確認していただいている。お一人お一人の栄養バランスや摂取状況を全職員が記録し、把握し、習慣に応じた支援をしている。		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人お一人の状況にあわせて、毎食後、歯磨きや入れ歯のケアを誘導、見守り、介助をしながら支援している。必要に応じて歯科訪問診療を受けている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサインを把握してさりげなくトイレ誘導、見守りを行い、オムツを出来るだけ使用しない様にケアの目標を立てている。失禁時の更衣は必ずドアを開けて羞恥心に配慮しながらさりげなく行っている。	排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮をしながら、排泄パターンに沿った、さりげないトイレ誘導や声掛けをし、排泄の自立に向けた支援をしている。おむつ使用からトイレ利用になった利用者も居る。おむつはずしをケアの目標とするなど、生きる意欲や自信の回復に繋がる、人間として一番自然な排泄状態となるよう努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜をたくさん使った料理、繊維質をとれる素材を取り入れ、水分摂取に気を配り、可能な限り毎日散歩している。又サインを見逃さず排便誘導をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	全てお一人お一人の希望に合わせて入浴している。さりげない誘導、見守り、介助を徹底し、必ずドアを開けて羞恥心に配慮して行っている。	毎日、午後入浴があり、利用者の希望に応じて、1日2~6人が利用し、平均して1人週3回は入浴している。夕食後入浴したい方、2人で入りたい方、歌を気持ちよく歌う方など個々に沿った支援を行い、職員としても入浴の機会を、利用者との良いコミュニケーションの場としている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の睡眠パターン、生活リズムを把握し、日中活動的に、夕方からは穏やかに過ごしていただき、夜は安眠できるように生活リズムを整えるようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については全職員で勉強会を行い理解している。薬が変わる都度、日報にのせ、又カンファレンスで周知を図っており、症状の変化の確認を徹底している。個人のファイルに服薬情報提供書をはさんでありいつでも見られるようになっている。服薬はのどがごっくと動くまでさりげなく確認している。		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人が少しでも出来る事を見つけ、又生活歴を活かした楽しみ、役割を持っていただき、必要とされていると感じていただける場面出来るだけ作るようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お墓参りや故郷のお祭りなど、可能な限りお連れしたり、家族にお願いして実現できるようにしている。お花見、リンゴ狩り、ドライブ、外食等季節を感じて楽しんでいただける機会を作りにしている。	住宅地の中の道路を「のぞみ通り」と呼び、周辺への日常的な散歩が行われ、近隣住民と交流をしながら季節の移り変わりを味わっている。花見、リンゴやイチゴ狩りなどの遠出のドライブも行い、戸外に出て気分転換や五感の刺激となる機会を多く持てるよう取り組んでいる。居間兼食堂の掃き出し窓から出られるデッキテラスは広く、外気浴等に最適であり、中央にある山ぼうしの木の色どりの変化や季節によって変わる風や匂いを味わうことが出来る場となっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状況、力量、希望に応じて、家族と相談しながら、出来るだけご自分のお財布にお金を入れて管理していただいている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使っただけ必要な援助を行ないながら、家族等への電話支援を行っている。現在は手紙を書ける方がいないため電話への支援となっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さも雰囲気も広めの家という感じで居間の和室にはこたつがあり、床の間には人形や花等を飾っている。トイレは車椅子も入れるように広めになっているが、ドアに鍵をかけることも出来、全てに家庭的な雰囲気を有するように心がけている。	居間兼食堂は台所と一体のフロアであり、腰高の畳の間もあり、掃き出し窓からはデッキテラスにも出られ、解放感のある、ゆったりとした落ち着いた雰囲気が漂っている。1年置きに飾られる雛段飾りは今年は西ユニットの畳の間にあり、利用者に春が近くまで来ていることを告げていた。正月・七夕・冬至カボチャ・ゆず湯・お盆など季節感を意識的に取り入れて、これまで馴染んできた日常の暮らしが今も続いていることを感じられるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、廊下に置いたソファ、自由に出入り出来るテラスや事務室、食事のテーブル等気の合った人同士で話していたり、テレビを見たり自由に過ごしていっている。		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に出来るだけ今まで使っていたしゃった寝具、家具や時計、カレンダー、アルバム等をお持ちいただく様をお願いしており、それぞれ個性のある自分の部屋で安心して過ごしている。	事業所で準備したのは収納棚のみであり、それ以外は全て利用者ご家族で、馴染みの物を自由に配置している。ベッド・寝具・家具・仏壇・テレビ・写真など各居室とも思い思いの部屋作りとなっている。窓からは事業所の庭の草木が眺められ、家に居た時と似たような風景が展開され、安心して、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーとし、要所は手すりがついている。ホームの全てのお年寄りに合わせて作られており非常に使いやすく安全である。ホームの全てが認知症のあるお年寄り暮らしやすい様に作られている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキ-) + (Enterキ-)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型のサービスに伴いグループホームの役割を再度学び直し、地域住民との関わりを重視し積極的に取り組んでいる。朝の申し送り時に理念を唱和し常に意識を高めている。ケアカンファレンスや社内研修等でレポートを出し合ったりして具体化に努めている。	評価結果を踏まえて、理念に地域との関係性を盛り込み、事業所の目指すサービスのあり方を示した事業所独自の理念を作っている。玄関入口に掲示し、訪問者にも周知すると共に、申し送り等で唱和して職員への共有化も図っている。全体会議等で理念の実践状況を振り返り、理念からぶれないケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組に参加して隣組長も行い地域の行事等にも参加して地域との交流に努めている。ホームの夏祭りやクリスマス会等にも地域の方々をご招待している。	隣組に加入し、組長も経験し、地区の道普請などの活動にも参加するなど地域に溶け込み親しいつきあいをしている。地域への行事参加、事業所行事への招待、中学生の職場体験や短大生の実習の受け入れなど双方向的なつきあいとなるよう取り組んでいる。海の日に開催するのぞみの家夏祭りには地域の方が大勢参加している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等でホームとして地域の方々に出ることをしていきたいと常にお話させていただいている。市の見守り事業所として登録し、地域の行方不明者の発見に協力している。認知症対応型の指定も取っており、自主事業での緊急の一時宿泊も行っている。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営協議会を定期的に行い、利用者やサービスの実際、評価への取り組み等について報告や話し合いを行い、サービスの向上に活かしている。	心身の状況に応じて、利用者も顔を出せる環境の中、地域や行政の方の参加の下、評価や苦情も含めた透明性のある議題を提出して意見交換を行っている。提案された意見に対しては速やかに対応している。開催回数や公表方法について、さらなる工夫をされることを望みます。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や市町村の連絡調整会議、グループホーム部会等に参加し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	事業所で開催する運営推進会議の折に事業所の現状の説明をし、協力支援を求めている。月1回開催する市の連絡調整会議・グループホーム部会に参加し、地域ニーズや行政の情報を把握したり、情報交換をしながら協力関係を築くよう努めている。	

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	一切していない。ありえない。	身体拘束をしないケアについては、契約書に事業所の姿勢を明記すると共に、利用者の権利として規定している。マニュアルの学習会等を通じて職員の認識の共有化を図り、抑圧感のない暮らしの実践に取り組んでいる。玄関の施錠はあるが、玄関近くに行くと音が出たり、見守りや連携プレーにより、利用者が外に出たい希望に対しては速やかに対応するよう取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各種研修、社内研修等で学んでいる。ケアカンファレンス等で情報交換を行い虐待が見過ごされることがないように注意を払い防止に努めている。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	各種研修、社内研修等で学んでいる。ケアカンファレンス等で必要に応じて活用できるよう支援している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に添って丁寧な説明を行い利用者や家族等の不安、疑問点等を伺い十分な説明を行い、理解、納得を伺っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情が寄せられた場合は会議を開いて検討、改善し入居者のご家族や運営推進会議などで報告している。利用者の言えない表せない思い等関わりの中で常に入居者の立場になって思いを把握して反映させている。重要事項に市町村の相談窓口を載せてある。	のぞみの家便りを毎月発行し、請求書と共にご家族に送付して、ご家族からの安心を得ている。面会時には温度版や場面シートを見て頂き、ご家族から見えにくい日々の様子を説明している。又、個人別の面会ノートを作り、相互にコメントを記入できるようにして、連絡帳の役割も果たしている。意見等は会議で話し合い、速やかに対応している。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回開設者、管理者、パートも含めた全職員参加の全体会議、カンファレンスを行っている。緊急時はその都度、ケアカンファレンスを行っている。また全職員が毎月必ず提案書を出し検討、実行している。	毎月全職員が日々の業務に関する、その月の目標を提案させて、職員の気付きやアイデアを運営に活かすと共に職員の自己研鑽や問題意識を高揚させる機会ともしている。管理者は全体会議の折に、職員の意見を聞き、職員同士の意見交換もあり、事業所全体のコミュニケーションは良く取れている。	

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>食事会や会議などで交流を図り、不安や迷いを共有し解決できるようにしている。職員も入居者も楽しく伸び伸びと生活出来るように、自主的に運営できるように支えている。困った時にいつでも連絡を取り合い相談できるように、管理者・ホーム・運営者同士が無料のソフトバンクの携帯電話を持っている。職員が安心して勤務できるよう、24時間対応で緊急時には押しボタンを押すと飛んで来てくれるように警備会社と契約している。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の質の向上を図るため計画的に研修や勉強の機会が設けられている。外部研修には個々のレベルに応じた研修に交代で出ている。研修後はパソコンに報告書に打ち込み系列事業所と独自のシステムで各事業所の報告が閲覧できる。常勤、非常勤に関わらず積極的に研修に参加している。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>市のグループホーム部会と佐久圏域のグループホーム連絡協議会に加入し積極的に交流の場を設けている。ネットワークづくりや勉強会、相互訪問などの活動を通してサービスの質の向上や職員の資質向上に役立てている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者にはホームの雰囲気馴染んでいただくために見学や職員による自宅訪問などを行っている。本人や家族等が納得してから利用開始することを基本としている。一時宿泊で馴染みの関係となり利用を開始するケースもある。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居希望者の家族にも困っていること、不安なこと、求めていること等ゆっくりお話しさせていただいて受けとめる努力をしている。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>入居希望者、ご家族のお話をよく聞き、情報提供書、診断書等も参考にし、その時まず必要としている支援を見極めた対応に努めている。</p>		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	感情豊かな生活を送れるよう全職員が言葉掛や雰囲気作りをしている。料理、畑仕事、遊び、漬物など職員に教えて下さり、助けていただき、共に過ごし支えあう関係を築いている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの入居者の様子を伝え、相談にのっていただいたりしている。入居者の思いに家族、職員と共に寄り添っていくことができるよう連携を図っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お一人お一人の人生の歴史や習慣などを大切に、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、ご家族にも相談しながら支援している。	ご家族の協力を得て、墓参りや馴染んだ故郷の祭りに出掛けたり、行き付けの理髪店にも行っている。電話を使っての会話の支援も行われ、これまでの暮らしで培ってきた関わりが継続出来るよう取り組んでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が助け合い、励まし合う場面が日常生活の中で度々見られる。必要な場面では職員がさりげなく目立たないように橋渡しをしている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了したあともホームに家族が来て情報交換、相談援助が行われている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者にたくさんのお話を伺い入居者お一人お一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は入居者の思いを職員間で情報交換している。	コミ理論を土台にして利用者の思いや意向を把握している。利用者との会話や表情から、どんな暮らしを望んでいるのか、有する力を発揮して自分らしくなれることは、どんなことなのかを具体的に教えてもらったり、職員間で情報交換しながら、利用者が暮らす喜びや希望を感じてもらえるよう取り組んでいる。	

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族に生活歴や生活環境、その方らしさを知るための調査に記入していただき、折に触れて入居者やご家族のお話をゆっくりと伺い、お一人お一人のこれまでの人生の把握に努めている。介護支援専門員・医療機関からは必ず情報提供書をいただき、サービス利用の経過等を把握している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日入居者お一人のファイルに日々様子を細かく記録し、一人ひとりの人生の歴史にあわせて、持てる力を見極めている。またケアカンファレンスで状況交換し総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、職員等で話し合い、入居者お一人お一人の心に寄り添って目標を立て、個々の特徴を踏まえて地域でその人らしく暮らし続けるために具体的な介護計画を作成している。月に一度は必ずモニタリングを行い、状態が変わったときにはその都度見直しをしている。	コミ理論に基づき、アセスメントから評価まで行っている。ご家族に記入してもらった調査書を土台に、利用者やご家族と十分に話し合い、計画作成担当者が中心になって、その人らしく生活するための介護計画を作成している。日々のカンファレンス、月1回の全体会議の場でモニタリング・評価を行い、設定期間毎の計画の見直しを行うと共に、心身の状況変化に応じて臨機応変の見直しもあり、現状に即した介護計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果、気づき、工夫など毎日の様子は個別記録、温度版やKOMI場面記録に記入し、情報を共有しながら介護計画の見直しに活かしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域で暮らす認知症の方のために共用型認知症対応型通所介護の指定を受けており、緊急時には、自主サービスとして緊急一時宿泊を行い、馴染みの関係の中で環境が変わることなく過ごせるよう支援している。自宅での生活が困難になった時に、馴染みの職員がいる馴染みの環境への住み替えができるよう支援している。医療連携体制を活かし、主治医による往診や、訪問看護により、受診や入院を出来る限り回避し、ADLが落ちないよう早期の退院を支援し、本人の苦痛や感染の危険がない限り看取りまで行っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人の意向や必要に応じて、運営推進会議や市の調整会議などで検討し、地域全体で協力しながら支援している。		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時にかかりつけ医を伺い、入居者、家族が希望する医療機関を受診していただいている。必要があれば、自費になるが、介護タクシーなどを手配し、希望する医療機関を受診できるように支援し往診していただける主治医には往診をお願いしている。</p>	<p>利用者やご家族の希望するかかりつけ医となっているが、時間の経過の中で事業所の協力医療機関をかかりつけ医とする方が大半となっている。受診の付き添いは基本的にはご家族となっているが、状況に応じて職員が代行している。その際は途中の事故等の懸念があり、介護タクシーを利用している。医療連携体制があり、かかりつけ医や歯科医の往診もあり、医療面での安心を得ている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>ホームに看護師がおり、不在のときには訪問看護ステーションとの連携が取れている。24時間いつでも相談できる医療機関もあり、非常に恵まれている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時医療機関には情報提供を行い、又入居者が安心して過ごせるよう、入院中にお見舞いに行き、帰ってくるのを待っている事を伝えている。病院の地域連携室や医療相談室を通して医師や看護師と密接に連絡を取り合い、ケアカンファレンス等を必要に応じて行って退院に備えて連携を取っている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に入居者、家族と話し合っている。状況に応じて、揺れ動く入居者やご家族の気持ちに添って、その都度かかりつけ医等と話し合い、全員で方針を共有し出来る限りの支援を行っている。訪問看護ステーションと医療連携体制が結ばれている。</p>	<p>重度化や終末期に向けた対応指針があり、利用者やご家族と十分に話し合い、了解を得ると共に全職員の対応への認識の共有化も出来ている。医師、看護師との連携や協力があり、ご家族等の希望に沿った対応が出来る環境となっている。了解事項について、ご家族の心の揺らぎもあるので都度の話し合いも行われている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>全職員が年1回救命救急の講習を受けている。定期的に心肺蘇生の練習をしたり、研修を行っている。</p>		
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回避難訓練を行っている。地域の行事や運営推進会議において地域の方や隣組の方の協力をお願いしている。</p>	<p>年2回(昼・夜想定)全職員参加の下、避難訓練を行い、防災マニュアル・避難経路図もあり、地域との協力体制も築いている。警備会社との契約、緊急メールでの同経営の全職員への連絡、食料等の備蓄、全職員の消火器の使用訓練、スプリンクラーは現在設置中と防災への備えは充分であった。</p>	

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は個人情報の保護について理解し守秘義務に徹底している。お一人お一人の人格を受け止めプライドやプライバシーを損ねない声かけや支援をしている。	尊厳の保持やプライバシーについては契約書に利用者の権利として明記し、個人情報の保護や守秘義務については職員に十分に説明し、責任ある取り扱いと言動への配慮を徹底している。個人の書類は事務室に保管されている。日々の言動については管理者が気付き次第、注意を促している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	衣類を選んでいただいたり、献立を相談したり、外食時にメニューを見て好きな物を選んでいただいたり、出来るだけ自分で決めたり、意思表示できるような生活を送っていただいている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大まかな予定はあるがその日の体調や気分などを見ながら柔軟に対応している。寒い朝ゆっくり寝ていたい人には朝食は起きた時に用意し、毎日入浴したい人には入浴していただくなど日々お一人お一人のペースや希望に添った支援をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分の好きな服を選んで着ていただいている。理容室や美容院は好きな所に行っていただいている。行かない方には美容師に来てもらっている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全てを入居者に相談しながら一緒に行っている。少しでも出来ることを見つけて関わっていただけようとしている。昔作ったおやつや料理を教えていただいて一緒に作っている。	利用者の心身の状況に応じて、出来る範囲で、調理の下準備から食器拭きまでの工程を職員と一緒にしている。焔で採れた物やおすそ分けで頂いた物を活用したり、利用者の知恵を借りて、野沢菜漬けのテンブラ、ニラセンベイ、桜もちなども作り、季節感や懐かしさを味わえる楽しい食事となるよう工夫もしている。献立は法人内系列の栄養士の基本献立を土台に、利用者とも話し合い、職員が作成し、毎月栄養士から栄養バランス等のチェックを受けている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士による勉強会や作成してもらった資料をもとに、栄養バランスの整った献立になるよう心がけ、毎食の献立を記録し、栄養士に確認していただいている。お一人お一人の栄養バランスや摂取状況を全職員が記録し、把握し、習慣に応じた支援をしている。		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	お一人のお一人の状態に合わせて、毎食後、歯磨きや義歯のケアを誘導、見守り、介助をしながら支援している。必要に応じて歯科訪問診療を受けている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンやサインを把握してさりげなくトイレ誘導、見守りを行い、オムツを出来るだけ使用しない様にケアの目標を立てている。失禁時の行為は必ずトイレ、居室でドアを閉め、本人の羞恥心に配慮しながらさりげなく行っている。	排泄に関しての羞恥心や不安を軽減する配慮をしながら、排泄パターンに沿った、さりげないトイレ誘導や声掛けをし、排泄の自立に向けた支援をしている。おむつ使用からトイレ利用になった利用者も居る。おむつはずしをケアの目標とするなど、生きる意欲や自信の回復に繋がる、人間として一番自然な排泄状態となるよう努めている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜をたくさん使った料理、繊維質をとれる素材を取り入れ、水分摂取に気を配り、可能な限り毎日散歩している。またサインを見逃さず排便誘導をしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人お一人の希望に合わせてゆっくりと入浴していただいている。お風呂の好きな方には毎日入浴が可能であり、嫌いな方には入っていたりするような対応を工夫している。	毎日、午後入浴があり、利用者の希望に応じて、1日2~6人が利用し、平均して1人週3回は入浴している。夕食後入浴したい方、2人で入りたい方、歌を気持ちよく歌う方など個々に沿った支援を行い、職員としても入浴の機会を、利用者との良いコミュニケーションの場としている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の睡眠パターン、生活リズムを把握し、日中は活動的に、夕方からは穏やかに過ごしていただき、安眠できるように生活のリズムを整えるように工夫している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬については全職員で勉強会を行い理解している。薬が変わる都度、日報にのせ、またケアカンファレンスで周知を図っており、症状の変化の確認を徹底している。個人のファイルに薬情書がはさんでありいつでも見れる。服薬は喉がごっくと動くまでさりげなく確認している。		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人お一人が少しでも出来ることを見つけ、また生活歴を活かした楽しみ、役割を持っていたり、必要とされていると感じていただける場面を出来るだけ作るようにしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来るだけ散歩に出て近所の方と交流したり季節の変化に気づいていただいている。お墓参りや故郷の祭りなど可能な限りお連れしたり、家族にお願いして実現できるようにしている。お花見、リンゴ狩り、ドライブ等でも季節を感じて楽しんでいただける機会を作るようにしている。	住宅地の中の道路を「のぞみ通り」と呼び、周辺への日常的な散歩が行われ、近隣住民と交流をしながら季節の移り変わりを味わっている。花見、リンゴやイチゴ狩りなどの遠出のドライブも行い、戸外に出て気分転換や五感の刺激となる機会を多く持てるよう取り組んでいる。居間兼食堂の掃き出し窓から出られるデッキテラスは広く、外気浴等に最適であり、中央にある山ぼうしの木の色どりの変化や季節によって変わる風や匂いを味わうことが出来る場となっている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状況、力量、希望に応じて家族と相談しながら出来るだけご自分のお財布にお金を入れて管理していただいている。買い物希望がある方には支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使っただけ必要な援助を行いながら、家族への電話の支援をおこなっている。現在は手紙を書ける方がいないため電話への支援となっている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広さも雰囲気も広めも家という感じで和室には炬燵があり、床の間には人形や花等を飾っている。トイレは車椅子も入れる様に広めだが、ドアに鍵をかけることも出来、全てに家庭的雰囲気にするように心がけている。	居間兼食堂は台所と一体のフロアであり、腰高の畳の間もあり、掃き出し窓からはデッキテラスにも出られ、解放感のある、ゆったりとした落ち着いた雰囲気が漂っている。1年置きに飾られる雛段飾りは今年は西ユニットの畳の間にあり、利用者に春が近くまで来ていることを告げていた。正月・七夕・冬至カボチャ・ゆず湯・お盆など季節感を意識的に取り入れて、これまで馴染んできた日常の暮らしが今も続いていることを感じられるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室、廊下に置いたソファ、自由に出入りできるテラスや事務所、食堂のテーブル等、気の合った人同士で話していたりテレビを見たり、自由に過ごしていられる。		

外部評価結果(グループホームのぞみの家)

自己	外部	項目	自己評価 実践状況	外部評価	
				実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時に出来るだけ今まで使っていたしゃった寝具、家具、時計、カレンダー、アルバム等をお持ちいただくようお願いしており、それぞれ個性のある自分の部屋で安心して過ごしている。	事業所で準備したのは収納棚のみであり、それ以外は全て利用者ご家族で、馴染みの物を自由に配置している。ベッド・寝具・家具・仏壇・テレビ・写真など各居室とも思い思いの部屋作りとなっている。窓からは事業所の庭の草木が眺められ、家に居た時と似たような風景が展開され、安心して、居心地よく過ごせる居室となっている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内は全てバリアフリーとし、要所には全て手すりが付いている。ホームのすべてがお年寄りに合わせて作られており、非常に使いやすく安全である。ホームの全てが認知症のあるお年寄りが暮らしやすいように作られている。		